

海洋科学技術センターニュース

なつしま



「みらい」の模型前で、大庭会長・平野理事長から説明を受けられる 天皇后陛下、ノルウェー国国王王妃陛下

Contents

天皇皇后陛下、ノルウェー国国王王妃陛下、海洋科学技術センター横須賀本部を御視察	2
「北太平洋時系列観測ネットワーク」開催	4
研究拠点移転のお知らせ	4
3月の主なセンター見学者	4
人事往来	5
運航スケジュール	5
主な新着図書	5
第3回全国児童「ハガキにかこう海洋の夢絵画コンテスト」入賞者決定	6
入所式	8
日本プランクトン学会2001年度論文賞受賞	8

天皇皇后両陛下、ノールウェー国国王王妃両陛下、

菜の花が咲き、桜が満開の3月28日、天皇皇后両陛下は、ノールウェー国ハラルド五世国王同王妃両陛下を御案内のため神奈川県下へ行幸啓になり、海洋科学技術センター横須賀本部を御視察されました。

天皇陛下は、昭和52年の皇太子の時代も、当センター横須賀本部を御視察いただいており、今回は2度目の御来訪となります。

午後4時前、センター職員約160名が歓迎する中御到着になり、大庭会長、平野理事長、大野文部科学副大臣等の御出迎えを受けられました。完成したばかりの国際交流施設「夏島閣」で

御休息の後、大庭会長、平野理事長の御案内で、まず、大講義室では、世界におけるセンターの活動概要のパネル、ハイパードルフィンで撮影した中深層生物のハイビジョン映像、圧力水槽で飼育中の深海魚ユメカサゴ、サツマハオリムシやユノハナガニなど深海生物、海洋調査船の模型等を興味深く御覧いただきました。

潜水調査船整備場では、「うらしま」、「ハイパードルフィン」、「しんかい16500実物大模型」等の潜水調査機器や、「トライトンブイ」、「音響トモグラフィー」、「J-CAD」等の観測機器を御覧いただきました。

この後、停泊中の支援母船「よこすか」にご乗船になり、「しんかい16500」を御覧いただいたき、さらにセンター岸壁では、停泊中の「みらい」等についても御説明を御受けになりながら興味深く御覧いただきました。

この後、センター関係者等が御見送りするなか、センター岸壁から巡視船「まつなみ」に御乗船になり、帰京の途につかれました。

天皇皇后両陛下、ノールウェー国国王王妃両陛下には、終止和やかに御視察いただき、御見送りの職員へも御気軽に御声をおかけいただきました。

(総務課)



御到着。大庭会長、平野理事長、大野文部科学副大臣がお出迎えしました。

～ 天皇皇后両陛下、ノールウェー国国王王妃両陛下をお迎えした感激の一言～

海洋生態・環境研究部
Dhugal John Lindsay

「日本はいかがですか」と皇后陛下が御尋ねになられ、こちらが「大好きです」と御答えいたしましたところ、「長くて下さいね」とおっしゃられました。

私はこの御言葉に無論感動いたしました。また、天皇陛下、ノールウェー国王両御夫妻とも中・深層生物について沢山御質問をなされたことも大変うれしく思いました。

総務部 総務課
牧 絵里子

夏島閣でのエピソード

天皇皇后両陛下、ノールウェー国国王王妃両陛下とともに、夏島閣では大変おくつろぎいただいたようです。

大広間では、「よこすか」など、窓の外に広がる景色をご覧になりながら、和やかにご歓談なさっておられました。

また、国王陛下は歓迎の意味で飾った小さなヨットの折り紙に目を留められて、にっこりとうなずいていらっしゃったそうです。

研究業務部 海務課
赤澤 克文

「しんかい16500」の模型の説明を大変興味深く聞いていただきました。こちらの説明が終わった後、模型の耐圧殻近くまで寄られ、船内の3名に天皇皇后両陛下からお声をかけて頂きました。3名は「潜航するより緊張した。」と話していました。

海洋科学技術センター横須賀本部を御視察



深海生物(ハオリムシ、ユノハナガニ)をご覧になる
天皇皇后両陛下、ノールウェー国王王妃両陛下。



潜水調査船整備場では、実際の調査機器等をご覧になりました。



お見送りの職員にもご気軽にお声をかけて戴きました。



巡視船「まつなみ」に御乗船になり、御出発されました。

総務部 山田 稔

私は広報の腕章を着けてセンター職員の見送りの列で、Lindsayさんにノールウェー国王が近寄り御声をかけている様子など撮影していました。

そのうち天皇陛下がおいでになったので(御無沙汰していますの意で)会釈しました。すると、「今は何を担当していますか?」と聞かれましたので、「広報の仕事をしています。」と答えました。皇后陛下もこちらを御覧になったので会釈をしました。

20数年前「奄美の魚と自然」についてご進講したことがあるのでお声をかけて頂いたものと思っています。ありがたいことです。

総務部 総務課
和泉 綾

「この名前は……職員の方なの?」
御見送りの際、運良く皇后様よりお声をかけて頂きました。
そのお優しい表情といったら!
とても刺激的な体験でした。
年度末の慌ただしさをふと忘れる、心地よくさわやかな風が吹きました。

「北太平洋時系列観測ネットワークショップ」開催

去る3月23日、24日、25日、シーバンスN館において、「北太平洋時系列観測ネットワークショップ」が開催されました。現在、人類活動が地球温暖化など地球環境・気候を変化させていることが確実になってきましたが、本ワークショップは地球環境・気候変動に対して海洋がどのような反応をするのか、どのような役割をもつのかを明らかにするために、長期間連続した

観測データが比較的少ない北太平洋のどこで連続観測(時系列観測)を行うべきかを討論するものでした。アメリカ、カナダ、ロシア、スイス、アイスランド、オーストラリア、韓国、そして日本から約40名の海洋観測の研究者が集まり、当センター本庄正非常勤理事、深澤理郎海洋観測研究部主幹による司会、進行の下、各国における時系列観測結果、時系列観測を行うため

の新しい海洋観測機器が紹介されました。そして海洋物理学、化学、生物学、地質学の観点から、北太平洋の時系列観測を行うべき様々な観測地点が提案されました。今後、むつ研究所ではこれらの意見を参考に、今回の参加者を始め多くの国内外の研究者と協力しあいながら北太平洋における時系列ネットワーク観測を行っていく予定です。(むつ研究所)



ネットワークショップ終了後の記念撮影

研究拠点移転のお知らせ

地球フロンティア研究システム及び地球観測フロンティア研究システムの研究拠点(浜松町:シーバンス及び住友浜松町ビル)が4月23日(月)より海洋科学技術センター横浜研究所敷地内に移転しましたのでお知らせいたします。(フロンティア推進室)

住所: 〒236-0001 神奈川県横浜市金沢区昭和町3173-25
TEL: 045-778-5700
(なお、ダイヤルインを採用しておりますので、お問い合わせ下さい)
FAX: 045-778-2293
最寄り駅: JR新杉田駅、京急杉田駅より徒歩約10分
詳しくは、<http://www.jamstec.go.jp/jamstec-j/yokohama/index.html> をご覧下さい。

3月の主なセンター見学者

3月は、9件(144名)の見学がありました。なかでも、3月14日に訪れた「江ノ島探検クラブ」(15名)は、江ノ島水族館が主催となつて、「海」をテーマに活動を行っている中学生達で、見学の際には、熱心な質問が多く寄せられました。特に、深海という未知の世界に生息する生物や有人潜水調査船「しんかい2000」に興味を持たれた様子でした。

なお、12年度の一般見学者は、延べ2549名(110件)にのぼり、小学生から

年輩の方まで幅広い年齢層の方にセンターの研究成果、設備を紹介することができました。また、普及・広報課では、年々増加する見学者に対応す

るため、4月から見学対応スタッフを1名増員し、さらに幅広いニーズにお応えできる体制となりました。

(普及・広報課)

3月2日(金)	花王株式会社	5名
3月5日(月)	海上保安庁水路部海外技術研修生	12名
3月9日(金)	神奈川県工業技術研修センター	50名
3月13日(火)	横須賀市立鴨居中学校1年生	3名
3月14日(水)	江ノ島探検クラブ	15名
3月15日(木)	東北大学工学部地球工学科3年生	18名
3月15日(木)	読間電波工業高等専門学校電子工学科	15名
3月16日(金)	中四国日酸会	16名
3月30日(金)	ノールウェー王国マリンバイオテクノロジー偵察団	10名

人事往来

新				旧
H13.3.31	横田 公男	退 任		理事(非常勤)
H13.3.31	遠藤 昌宏	退 職	気象庁気象研究所	海洋観測研究部長
H13.3.31	石井 進一	退 職		地球フロンティア研究システム長特別補佐
H13.4.1	伊藤 菁菫	選 任	理事(非常勤)	(協和発酵工業株式会社常務取締役)
H13.4.1	千々谷真人	兼 務	横浜研究所長	(理事)
H13.4.1	瀧澤 隆俊	昇 任	海洋観測研究部長	海洋観測研究部第3研究グループ研究主幹
		兼 務	海洋観測研究部第3研究グループ研究主幹	
		兼 務	むつ研究所第1研究グループ研究主幹	
H13.4.1	伊藤 信夫	昇 任	研究業務部長	研究業務部次長
		事務取扱	研究業務部計画調整課長	
		免 兼	研究業務部計画調整課長	
H13.4.1	加藤美志彦	配 置 換	横浜研究所情報業務部長	研究業務部長
H13.4.1	井上 直樹	配 置 換	横浜研究所フロンティア研究推進室長	フロンティア研究推進室長
H13.4.1	掘越 弘毅	配 置 換	極限環境生物フロンティア研究システム長(非常勤)	深海環境フロンティア長(非常勤)
H13.4.1	久城 育夫	採 用	固体地球統合フロンティア研究システム長(非常勤)	(東京大学名誉教授)
H13.4.1	行武 毅	配 置 換	固体地球統合フロンティア研究システム長特別補佐(非常勤)	海底下深部構造フロンティア長(非常勤)

運航スケジュール

なつしま	4月23日～6月1日	黒島海丘・南西諸島	「しんかい2000」調査潜航 「ドルフィン-3K」事前調査
かいよう	5月2日～5月9日	三陸沖	「ハイバードルフィン」訓練潜航
	5月14日～6月29日		定期検査工事
よこすか	4月6日～5月10日		年次検査工事
	5月18日～6月13日	伊豆・小笠原 南海トラフ、駿河湾	「しんかい16500」調査潜航
かいいい	4月27日～5月10日	室戸沖	「かいこう」調査潜航
	5月17日～6月5日	東海沖	MCS調査
みらい	3月28日～5月10日		年次検査工事
	5月14日～5月28日		亜熱帯・亜寒帯循環の研究
しんかい2000	5月6日～6月1日	黒島海丘・南西諸島	
ドルフィン-3K	4月23日～5月5日	黒島海丘	一般公開
しんかい16500	5月18日～6月13日	伊豆・小笠原 南海トラフ、駿河湾	5月12日 「かいよう」「かいいい」
かいこう	4月27日～5月10日	室戸沖	海洋科学技術センター
ハイバードルフィン	5月2日～5月9日	三陸沖	

主な新着図書

平成13年2月13日～3月12日 和図書:60冊 洋図書:5冊 IOC刊行物:5冊

国 内

電気学会
電気工学ハンドブック 電気学会
2001

日本栽培漁業協会
栽培漁業技術体系化事業 基礎理論
コース テキスト集14
日本栽培漁業協会 2001

日本栽培漁業協会
アカアマダイの親魚養成と種苗生産に
関する研究
日本栽培漁業協会 2001

国土交通省 港湾技術研究所 編
港湾技術研究所のあゆみ
国土交通省 港湾技術研究所 2001

IOC刊行物

IOC Reports of Meetings of Experts
and Equivalent Bodies
IOC-WMO-UNEP-ICSU-FAO
Living Marine Resources Panel of the
Global Ocean Observing System
(GOOS)
Third Session Talcahuano, Chile
8-11 December 1999
GOOS Report No.83 GOOS

IOC Reports of Meetings of Experts
and Equivalent Bodies
IOC-IUCN-NOAA
Consultative Meeting on Large Marine
Ecosystems (LMEs)
Third Session Paris France
13-14 June 2000 IOC

IOC Reports of Meetings of Experts
and Equivalent Bodies
IOC-WMO-UNEP-ICSU Coastal Panel
of the Global Ocean Observing System
(GOOS)
Fifth Session Gdansk, Poland
2-6 May 2000 GOOS Report No.86
GOOS

IOC Reports of Meetings of Experts
and Equivalent Bodies
IODE Group of Experts on Technical
Aspects of Data Exchange
Eighth Session
NASA Goddard Space Flight Centre
Greenbelt, MD,
United States of America
13-17 March 2000 IOC

第3回全国児童「ハガキにかこう海洋の夢」絵画コン

文部科学大臣賞

横須賀市長賞

むつ市長賞



題名:海の世界へ
坂本 志央里(さかもと しおり)
神奈川県 川崎市立川中島小学校6年



題名:海の中のだいくさん
酒井 郁摩(さかい いくま)
青森県 むつ市立第一田名部小学校2年



題名:おもしろいせんすいかんホテル
鈴木 貴子(すずき たかこ)
茨城県 東海村立中丸小学校1年



日本理科美術協会賞

題名:たつのおとしご号にのって
若林 桂汰(わかばやし けいた)
静岡県 清水市立浜田小学校1年



海洋科学技術センター
会長賞

題名:バラバラカーニバル
加藤 早由美(かとう さゆみ)
静岡県 菊川町立六郷小学校5年

海洋科学技術センター理事長賞
金賞



題名:すばらしい海 大野 悟(おの の さとる)
和歌山県 和歌山市立橋見西小学校3年

海洋科学技術センター理事長賞
銀賞



題名:とびうおさんのゆうびん屋さん
藤岡 諒(ふじおか まこと)
神奈川県 横須賀市立岩戸小学校1年



題名:21世紀水中都市アクアシティ
鈴木 亜由美(すずき あゆみ)
埼玉県 越谷市立鷺後小学校6年

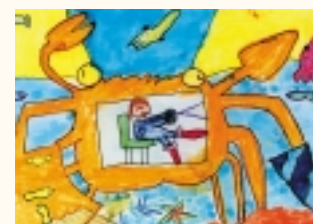
海洋科学技術センター理事長賞 銅賞



題名:魚の上での遊び 岡田 夕莉乃(おかだ ゆりの)
徳島県 鳴門教育大学学校教育学部附属小学校1年



題名:ぶくぶく...
岡崎 優美(おかざき ゆうみ)
福井県 春江町立春江西小学校5年



題名:みんなとつくる海底公園
岡島 葉子(おかじま ようこ)
神奈川県 小田原市立久野小学校2年

テスト」入賞者決定

全国の小学生を対象とした「ハガキにかこう海洋の夢絵画コンテスト」の入賞作品が決定しました。今回は昨年12月12日から今年2月12日までを募集期間とし、応募数は昨年を上回る26,973点(昨年は23,748点)に達しました。これらの作品について3月2日に予備審査会を、3月8日に本審査会を実施し、合計38点の入賞作品が決定しました。

また、入賞者に対する表彰式を3月30日にメルパルクTokyoにおいて実施いたしました。大野文部科学副大臣、佐藤横須賀市総務部広報課長、相馬むつ市収入役、渡邊日本理科美術協会代表などのご出席のもと、盛大な式となりました。

なお、上位入賞者 文部科学大臣賞、横須賀市長賞、むつ市長賞、日本理科

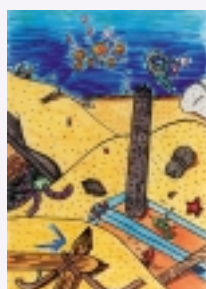
美術協会賞、海洋科学技術センター会長賞)の5名には、来る6月16～17日に、鹿児島湾における支援母船「なつしま」の「ドルフィン3K」潜航クルーズにご招待し、海洋観測の現場と船内生活を体験していただく予定です。

(普及・広報課)

アイデア賞



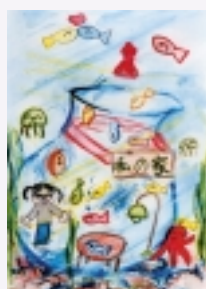
「自然力電気魚の発電所」東 大史
青森県むつ市立第二田名部小学校5年



「夢の中、今だ覚めぬ遺跡達」伊勢田 唯
青森県むつ市立第一田名部小学校6年



「モニターで人間研究」嶋崎 優子
青森県むつ市立第一田名部小学校6年



「私の家は海の中」早川 弥奈
神奈川県横浜市立荏田東第一小学校2年



「お野菜ができる海中菜園」藤澤 明日香
香川県多度津町立四箇小学校1年

努力賞



「深海のファンタジー」高橋 太賀
東京都東京韓国学校初等部4年



「エイロボで海をたんけん!」
石丸 俊介
兵庫県神戸市立露ヶ丘小学校
4年



「くじらやいるかも、ぼくらのともだち
仲間は海の中にいっぱいいるんだよ」
黒津 弘明
兵庫県姫路市立白浜小学校1年



「あわの車でちよつとさんぽ」
東方 麻乃
和歌山県海南市立亀川小学校5年



「魚とあそべる楽しい公園」
中野 椋介
長崎県長崎市立南長崎小学校2年

佳作

未来深海図	南 正展	鹿児島県鹿児島市立松原小学校4年
「みんな元気?」-ただいま交信中-	上原 光紀	神奈川県横浜市立すみれヶ丘小学校4年
まどをあければいつも海	大杉 悠人	福島県矢吹町立善郷小学校5年
きれいな海で探検しよう	内山 莉聡	千葉県千葉市立高洲第二小学校5年
次世代せんすいかんハイインパクト4500	榎本 翔太	群馬県群馬町立金古小学校3年
あざらしとイルカ	伊藤 佳純	神奈川県横浜市立奈良小学校4年
たつのおとし号	吉田 美里	神奈川県川崎市立古川小学校3年
海中での農作業	村田 敏彦	青森県八戸市立図南小学校6年
しんかいにすむふしぎな魚たち	本間 大海	千葉県千葉市立緑町小学校3年
海のお正月もおおにぎわい	戸賀沢 舟	青森県むつ市立第二田名部小学校1年
海に眠る宝	伊藤 真理江	神奈川県横浜市立名瀬小学校5年
クジラのふんすいあそび	志田 洋平	神奈川県横浜市立日下小学校1年
さかなのけっこんしき	八島 里恵	佐賀県唐津市立成和小学校2年
うみのかくれんぼ	久高 萌	沖縄県名護市立大北小学校1年
人がすめる海ヘレツゴー	中村 梨乃	佐賀県鳥栖市立若葉小学校2年
マリンスノーをイルカといっしょに	黒沢 麻里	神奈川県三浦市立名向小学校6年
あったらいいなこんなクラゲの家	塩田 典子	岡山県岡山大学教育学部附属小学校3年

入 所 式

平成13年4月2日、本館1階大講義室において、平成13年度新入職員の入所式が行われました。

新入職員が紹介された後、理事長から祝辞があり、新入職員を代表して、赤根英介さんから答辞がありました。

今年度入所式の対象者11名を紹介します。

(人事課)

平成13年1月1日付	吉松あゆみ	経理部 契約課
平成13年1月1日付	荒木英一郎	深海研究部
平成13年2月1日付	後藤 忠徳	深海研究部
平成13年4月1日付	阿久津雅裕	総務部 総務課
平成13年4月1日付	赤根 英介	企画部 企画課
平成13年4月1日付	高橋 志乃	企画部 国際課
平成13年4月1日付	才善 主門	横浜研究所 情報業務部 情報業務課
平成13年4月1日付	渡邊 佳孝	海洋技術研究部
平成13年4月1日付	細田 滋毅	海洋観測研究部
平成13年4月1日付	内田 裕	海洋観測研究部
平成13年4月1日付	松本亜沙子	海洋生態・環境研究部



後列左から

吉松あゆみ 後藤忠徳 松本亜沙子

内田裕 細田滋毅 渡邊佳孝 才善主門

高橋志乃 赤根英介 阿久津雅裕

前列左から

三木国際リエゾン 木下理事 山本理事

平野理事長 千々谷理事 本庄理事

成田監事 関特任参事

欠席：荒木英一郎（乗船中のため）

日本プランクトン学会2001年度論文賞受賞



ジェームズ・ハント博士(左)とドゥーグル・リンズィー博士

2001年2月、海洋科学技術センター海洋生態・環境研究部のジェームズ・ハント博士とドゥーグル・リンズィー博士

は、日本プランクトン学会から2001年度論文賞を受賞しました。今回の受賞は、プランクトンネットによる採集方法では得ることができなかったゼラチン質プランクトンを含む中・深層生物の生態情報を明らかにする手法を開発したことに対するものでした。両博士は、潜水調査船「しんかい2000」や無人探査機「ドルフィン3K」などで撮影したビデオ映像に記録されている全ての中・深層生物をいろいろな分類レベルに分けてデータベース化しました。そし

て、そのデータベースを用いて、相模湾には日本近海から初記録の13種を含む75種の中・深層生物が生息していることを明らかにすると共に他の海域に生息する中・深層生物との比較研究を行ったのです。この研究は、独創的で応用範囲の広い手法を開発したのみならず、日本近海の中・深層生物についても多くの新知見をもたらしたものであり、高い評価が得られたのです。

両博士は「地球の海の96%を占める中・深層生態系に生息する生物の生態などについて、今後、さらに明らかにして行きたい。」と語っています。

(海洋生態・環境研究部)

編集後記

大きな行事があったため、今月号は特別にカラーページを増やしました。また、今月号より誌面を一新いたしました。如何でしょうか？

なお、紙面の編集に時間がかかってしまったため、皆様のお手元に届くのが遅くなりましたことを深くお詫び申し上げます。

来月号より、日本海洋事業、マリン・ワーク・ジャパン、グローバル オーシャン ディベロップメントの役職員の方々にも配布いたします。

海洋科学技術センターニュース「なつしま」No.183

編集発行人 海洋科学技術センター 普及・広報課
情報業務課
本 部 〒237-0061 横浜賀市夏島町2番地15
TEL 0468-67-3942
むつ研究所 〒035-0022 青森県むつ市大字関根
字北関根690番地
TEL 0175-25-3811
東京連絡所 〒105-0003 東京都港区西新橋1-1-15
物産ビル別館1階
TEL 03-5157-3900

インターネット JAMSTECホームページアドレス
<http://www.jamstec.go.jp/>